

非暴力貫く辺野古の最前線で座り込みと強制排除を経験

全商連沖縄連帯ツアーに参加して

常務理事 西尾 栄一

沖縄連帯ツアーは1月14日昼12時に那覇空港に集合し16日昼過ぎに那覇空港で解散するまでの2泊3日の日程でした。全国から51名が参加しました。連帯ツアーの日程は大変ハードで、朝早くから夜遅くまで、ほとんどが学習と交流中心に計画されていました。基地や施設の見学中、そして、バスの中でも沖縄平和委員会の役員さんが様々な資料を示しながら熱心に話をしてくれました。

1日目は嘉数高台・普天間基地、北谷・基地外住宅、沖縄戦米軍上陸地点、嘉手納基地・安保が見える丘(道の駅かてな)などを見学しました。夜7時半からは名護民商主催の夕食交流会・歓迎行事に参加しました。森住卓さんのスライド上映、琉球空手、琉球歌などで楽しみました。料理は名護民商の皆さんの手作りでした。この日は名護泊。2日目は朝6時にホテルロビーに集合して、辺野古ゲート前座り込みに参加。ホテルに戻り急いで朝食を済ませてバスへ向かいました。午前中は東村高江のテント村視察・交流。昼食はオリオンビールのレストランでしたが、ビールは飲めませんでした。午後から2度目の名護市辺野古座り込み。大浦湾の海上視察に参加。夜7時半から宜野湾市長選挙勝利めざす決起集会(宜野湾社会福祉センター・140名)に参加しました。会場で吹田民商事務局にいた横澤喜代子さん(八重山民商事務局長)と10年ぶりに再会しました。

3日目はひめゆり資料館、魂魄の塔、不屈館を見学。バスの中で感想を交流して解散しました。その後、21日まで宜野湾市長選挙の応援に参加しました。

辺野古ゲート前の座り込みには15日の朝と昼、21日朝の3回、参加しました。朝6時半頃に現地に着くと、ゲートのすぐ前には防寒具に身を包んだ屈強な体つきをした警備会社の職員が横一線に立ち構えていました。ゲートの両脇には大型の警備車両がわざとのように数台ずつ停めてありました。地元の住民の皆さんは、警備会社職員の前、車両の間に挟まれるような形でスクラムを組んで座り込んでいました。周囲が徐々に明るくなるにつれてどん

どん人が



集まってきました。ゲート前の歩道いっぱい人があふれようとするころになると機動隊員もやってきました。座り込みリーダーの女性はそれに動じることなく、「沖縄を返せ」「座り込みここに」などの歌を元氣よく歌って参加者を励ました。機動隊員に連れていかれるときには全身の力を抜くようにとの注意も促していました。しばらくの間、座り込みの人々と機動隊とが対峙した状態が続きました。機動隊員は若者ばかりです。機動隊の多くがマスクをしています。「顔を見せられないのか」「風邪をひいているのなら休みなさい」と声をかけたり、サングラスをした幹部機動隊員には「サングラスを外せ」と抗議したりしていました。7時になると、座り込み排除の指令が出ました。3人から5名で1組になった機動隊員が座り込んでいる一人一人を隊列から外して、車両の内側の囲いまで強制排除していきました。私も4名の機動隊員に強制排除されました。30分ほどその攻防が続くと警備会社の職員が一斉に前方に躍り出てトラックが入る空間をつくりました。その前は何台もの工事車両が入っていききました。予定された工事車両のすべてがゲートを入っていくのを確認して強制排除された住民が解放されました。沖縄の皆さんは、このような闘いを毎日、毎日繰り返しているわけです。少しでも、工事の進捗を遅らせようとの本当に息の長い闘いです。最近では「オール沖縄会議」のリードで、地域ごとの担当日が決まっているようです。そして、座り込みが400名を超えると機動隊員も身動き取れない状態になることも分かってきたそうです。

ゲート前から近く、近くに辺野古漁港があります。ここには海上からの反対運動のテントがあります。運動の中心に名護民商会長で沖縄県連会長の仲本さんがいらつしやいます。同じ民商運動の仲間として誇らしい気持ちです。15日の午後3時過ぎから二手に分かれて船に乗せていただきました。船からすぐ海底が見えます。地元の皆さんはこれを「海の冷蔵庫」と言っているそうです。魚の隠れ場所一つ確保すれば生活に困らないという意味だそうです。大浦湾の美しさはテレビでも何度も見ていましたが、直接見るとやはり綺麗です。サンゴ礁が広がり、自然と共に育ってきた海であることがわかります。ジュゴンの通り道も教えていただきました。これを埋め立てようとするなんて許されません。この日は宜野湾市長選挙の影響もあり工事は中断されていました。それでも、私たちの船が動き出すと、民間警備会社の船が周辺を何度も走っていききました。工事現場のフロートに近づくと海上保安庁の船が警告してききました。約1時間にわたり大浦湾を見せていただきました。海上から見る陸地の多くが米軍キャンプです。これが沖縄に返されたら、この地は素晴らしいリゾート地になるのは間違いないと思えました。一人でも多くの皆さんに見ていただきたいと思えました。

今回の連帯ツアーでは辺野古は勿論、高江でも地元の皆さんの息の長い、それも日常生活の延長のような気負いのない運動を学びました。瀬長亀次郎さんの不屈館にも行くことができました。沖縄県民の暮らしに根差した運動、諦めない運動が日本中に広がることを期待して帰ってきました。

会費集金は会員の心をあつめる活動です 毎月10日までには集めましよう

商工新聞は経営のヒント・いんぷの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましよう